

「スウェーデンと小樽の架け橋作り」の最終成果発表をする小樽商大の学生たち



「本気」で地域活性化提案

小樽 樽商大生が成果発表

小樽商大の学生が地域活性化を目指しながら社会人としての基礎を身につける授業「商大生が小樽の活性化について本気で考えるプロジェクト(本気プロ)」の成果発表会が27日、小樽市内の連河プラザで開かれた。会場には約80人の市民らが集まり、学生が半年間行った取り組みを聞いた。

本気プロは2008年から毎年、夏と冬に開講し今年で11年目。今回は昨年7月に活動を始めた7班、計28人の学生が発表を行い、班ごとに15分ずつ成果発表をした。

「スウェーデンと小樽の架け橋作り」をテーマにした班は、お茶を飲みながら家族や同僚と会話を楽しむ同国の習慣「フィーカ」について説明。企業の社員同士の連携力向上に向けて、導入の提案を市内企業数社に行い、試験的採用に至った成果を報告した。

また本気プロの今冬1回目の授業も公開。同大の高野宏康研究員が参加者や新履修生に講義を行った。

(徳留弥生)

ボイス
小樽から



樽商大生が起業の
合同会社代表社員
石川 湧也さん(22)

小樽商科大の学生が立ち上げた合
同会社「ええんちゃん」が、小樽市
内でゲストハウス「順風満帆」(緑
1)を3月8日に開業する。代表社
員として仲間と準備を進めており、
「地元住民と観光客との懸け橋とな
る場所になりたい」と意気込む。
商学科4年。入学後、マーケティ
ングを勉強するうちに起業に興味を
持った。3年生のとき、他のゼミ生
と一緒に、市内で開いた1日限りの
カフェは赤字だった。「もう一度挑

戦する機会をつくって、絶対に成功
させたかった」と振り返る。

「学生生活を過ごした小樽をもっ
と元気にしたい」と開業を決意し、
自身を含めたゼミ生5人で昨年10月
に会社を設立。市内の阿部建設が所
有する2階建て住宅を借り受ける。
下級生を含めた計29人の社員学生が
交代で常駐し、和室と洋室計5室の
20床を運営する。

運営資金など確保のため、インタ
ーネットで支援金を募るクラウドフ
ァンディング(CF)を活用。目標
は120万円。4月以降は後輩に事
業を引き継いで運営を続ける。「と
ても充実した毎日。最後まで仲間と
共に走り抜きたい」。CFは2月22
日まで専用サイト(<https://ready.or.jp/projects/oraruguesthouse>)
で受け付けている。(谷本雄也)

2次試験 出願開始

北大など 道内12大学受け付け

国公立大の一般入試2次試験の願書の受け付けが、28日から全国一斉に始まった。道内では北海道大、北海道教育大、小樽商大など12大学で2次試験を実施。出願は郵送のみで2月6日午後5時必着で締め切られる。

12大学のうち、大学入試センター試験の得

点でふるいにかける2段階選抜は北海道大、札幌医大、旭川医大の3大学で採用。2次試験の日程は、前期が2月25日から、後期が3月12日からで、釧路公立大は3月8日の中期日程で行われる。

札幌市北区の北海道大には、第1便で40通の願書が届いた。担当職員が開封し、書類に不備がないかを確認していった。北大は一般入試で道内最多の2419人(前期1927人、後期492人)を募集。既に昨年12月に合格者が決まっているAO(アドミッション・オフィス)入試で水産学部に出たため、前期分の募集枠を当初募集人数より3人増やした。北大では第1段階選抜の結果を前期は2月13日、後期は同28日に発表する。

【坂本智尚】



郵送で届いた2次試験の入学願書を確認する
大学職員＝札幌市北区の北海道大で